
純粹

イマワギマヤ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

純粹

【Nコード】

N 8 7 1 5 Q

【作者名】

イマワギマヤ

【あらすじ】

久しぶりの再会を果たす友人

気持の変化や葛藤を経て暖かく幸せな時間を紡いでいく。

o n e d a y (前書き)

全ての繋がれる方々に。

o n e d a y

（ああ、今日は何日だったっけ）

私の頭の中は、毎日のただ繰り返しですっかり時間の刻み方を忘れてしまっている。

外はもうつつすらと白みはじめて、朝がきたこと告げていた。

（そうか、日が登るのが早くなってきたな）

そんなことを考えながら、ヒーターのスイッチをいれた。

昨夜飲みきれなかった缶ビールがテーブルに残っている。

（折角あけたのに）

しぶしぶキッチンに飲み残しを流しながら、お湯を沸かす。

ふと、冷蔵庫の横においたカレンダーが目がいった。

(あっ)

ピーピー!!!

湯気の立っているやかんの火を慌てて止めた。

そして、小走りで携帯を取りに行き、メールを確認する。

【ただいま！今ようやく戻りました！！！今週末時間ある？】

今日は写真の勉強だかなんだか知らないが、アメリカに行っていた友人が帰国する日だった。

日本を発った日は、この日をずっと心待ちにしていたはずなのに
考えないように努めてたせいか、今日の今日まで全くもって忘れていた気がする。

むしろ、忘れようとしていただけにあの日の気持ちが全く思い出せないことに少し氣まずさすら感じた。

コーヒーを淹れながら、返信を考える。

（最後に話した時、私はなんて言っただけだったっけ）

彼は、私の大切な友達――だったはずだ。

特別な感情はなく、ただ、気楽に一緒にいられる。そんな関係だった。

性別を超えた友情がある

そう心から思える仲だった。

（とりあえず、返信しないと）

【おかえり。長旅おつかれさま！時差ボケしてるんじゃない？今週末は今のところ予定もないから、お土産もらいがてらご飯でも行こうか（笑）】

そう送って、暖まってきた部屋の天井を見上げる。

（さて、支度をしよう）

私の凍りはじめていた心が、少し溶けはじめた。

o n e d a y (後書き)

縁を守りたい。幸せにしたい。そんな気持ちになっていただけたらと思います。

o n e d a y 2

しかし、私は相変わらずくぐもった気持ちが拭えずにいた。

私は彼の存在をただの背もたれの様な都合のいい友人だと思っていた。

そう

思っていたのだ。

彼が日本を離れることを聞き、私は笑顔でその場にいられたかすら正直自信がないほど。

急にひとりぼっちになってしまった。

そう思うくらいの言い知れぬ孤独感、虚無感、不安感。

その時から、まるで何かから逃れるかの様に私の中にいる純粋な私

が暗い暗いダム^{ダム}の底に沈んでしまった。そんな気がしていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8715q/>

純粹

2011年10月8日18時06分発行